



根来山げんきの森倶楽部

令和5年1月作業日誌

活動日：令和5年1月15日(日) 9:30～15:30 天気：晴れ 倶楽部員： 人

2023年初仕事は先月とは打って変わって暖かく、心配されていたお天気も持ちこたえて幸先の良いスタートとなりました！！今年の冬は和歌山ではまれな大雪に見舞われるなど不安定な気候ですが、げんきの森では梅や水仙の花も咲き始め、春への準備は着々と始まっているようです。

ロゴソール



貴重な板の利用も楽しみ

今回は男性5人女性3人で作業しました。

初めに、一本で4枚の板を取りました。下に在庫がなかったので上の広場から2本運んでもらいました。その一本をセッティングしたのですが、かなり大きくてカットできる範囲が超えており、なんとかいらぬ部分だけカットしたのですが上下するためのハンドルのひもが切れてしまい今回の作業はここまでとなりました。ひもは午後から購入後セットしてもらいました。

とにかく丸太は非常に重く運ぶのも移動するのも大変ですし、とても危険です。みんなで手分けして引っ張ったり押さえたり声をかけながらの作業でした。

大変な分、出来た板はとても貴重なものに思いました。

(栗山 美和)



くるみ割り

実を取り出すの地味に難しく・・・



2月に倶楽部員対象で開催されるお餅つきで使うオニグルミの殻を割り、実を取る作業を行いました。

オニグルミは、一般に流通しているクルミより殻が固く、実も取り出しづらいため、まず殻ごと軽く炙り、殻の口が少し開いたところで剪定ばさみで真っ二つに割り、中の実を取り出します。実も、売ってるような綺麗な形では取れないので、糸切りリッパー（裁縫道具）やフルーツフォークなどを使って（先輩方の知恵と経験の賜物）チマチマとほじくりだします。最初は4人で始めましたが、途中から人数も増え、地味な作業も無事終了！

来月には、私たちががんばって集めたクルミが皆さんのお口に運ばれることとなるでしょう。お楽しみに。

(神浪 佐知子)



新年、第1回目の定例活動日。昨日までは「4月並みの暖かさ」でしたが、その余韻が残る1月っぽくない日で、天気予報に反して雨も降らず、作業にはちょうど良い日でした。プレーパークからさらに奥の遊歩道脇で、年末に伐採したコナラを炭材として運び出すのがメインのメニューでした。細い部分は120cmの規格の長さに揃え、太さのある幹の部分はその半分くらいで輪切りにし、テラーに積める量ずつ舗装道路の境界まで何往復にも分けて運搬しました。重量オーバーで坂を上れなくなり、人力で押してアシストする場面も結構ありました。

お昼には温かいお味噌汁が振る舞われましたが、その中には作業小屋の脇に生えていた、取れたてのきくらげが入っていたはず…。皆さん気が付きました？

午後は遊歩道にかぶった枝を払ったり、立ち枯れしたクヌギをさらに伐採しました。今まで何度も見た光景ではあるのですが、結構高くまで木登りし、チェーンソーを片手持ちで高枝を切る〇事務局長の姿はまさにこの森の大将。

一通り片付き、皆さん概ね引き上げた帰り道、〇事務局長曰く、「Kさんあとどのくらい体力残ってる？20%くらいあれば大丈夫やけど。」うーん…とあれこれ想像し始めるや否や、「あの木を軽トラで炭焼き小屋まで運ぶ」と度肝を抜くプラン。作業中に皆さんが口々に言っていた「この後はリンナイじゃないと無理やな」の言葉が頭の中に渦巻きまます。だって、臼にして餅がつけそうな“ぶっとい”奴がゴロゴロいるんですから。荷台が低いテラーに積み込むだけでも大変だったんです。ひ弱なぎっくり腰おやじが勝てる相手ではありません。20%???いや200%残っていたとしても無理です。…などと心の中で呟きながら管理棟まで歩いていくと、なんと救世主現る！H氏登場。その働きっぷりと言ったら、もう神です。凛々しすぎる。重い丸太をダンプの荷台にひょいひょい持ち上げます。人の出せるパワーを超えています。せめてちょっとだけ重そうな顔だけでも見れたなら私の面目なさも和らぐのですが…。ん？まで(@_@)、〇事務局長も負けてないではありませんか。鉄人です。

そんな光景を横目に、申し訳なさに細い木ばかりを運ぶぎっくり親父は、今晚きつと、H氏と〇事務局長ペアが腕相撲でリンナイをやっつける夢を見ることでしょう。

(楠 正暢)





午前の作業 作業者 10名

炭焼き窯に炭材の充填 および 窯の出入口の密閉用の土作り

*充填作業の仕上げの窯の出入口の密閉作業は少しコツとやや力のいる仕事でいつも悩まされます。今回も初めての方にしてもらったのですが、いつもの大きな石で半分程度積んだところで、レンガの方が作業がやり易いのではないかと言う事になり、午後からあるだけのレンガを使って密閉しました。感想はイマイチで、いまのレンガの大きさの倍あればましかなと言う事でした。

午後の作業 作業者 12名

炭材置き場の横に積み上げられた木材を その形やサイズを炭材用に整え太いものは薪割り機で割って小屋に積み上げました。

同時に販売用の薪も作成しました。 (林 龍三)



豚汁作り

特産きくらげも入って、栄養満点



この日は三月並みの気温で温かく、真冬とは思えない朝でした。

とは言いましても、春を待つ山での温かい汁物は誰もが喜び楽しみの一つに変わりはありません。「楽しみを楽しく作れたら…」と今回、豚汁作りを初体験させていただきました。

今日の調理班は5名。最初は3名で「この人数で皆さんのぶんを作れるのかな？」なんて心配していましたが、心配ご無用！食材がずらりと机の上に並べられ、先輩2名が手際よく早速調理に取りかかると同時に「白菜をお願いしようかな…」と、私へもお声がけいただき、躊躇なく始めることができました。途中で他のいろいろなお世話をされているMさんが加わってくださり、調理のスピードがアップ！Sさんもお参加くださりアツという間に寸胴にお汁ができて、後は煮てお味噌を溶くだけとなりました。

具材は豚肉、白菜、人参、大根、里芋、有田特産ほねく、こんにゃく、お揚げ、そしてげんきの森特産、Oさん採取のとれたてキクラゲと具たくさんでした。

私は私用のためここで山を下りることになり、残念ながら味わうことはできませんでした。

本当に残念…しかしながら、みなさんとワイワイと調理ができて楽しかったので、次回もぜひ参加して今度は味わいたいと思っています。皆様、お疲れ様でした。 (藤原 美佐子)

うるし谷整備

うるし谷入口の梅もちらほらと花をつけ、春を期待させています。今日は午前8人午後7人での作業です。

先月に引き続き沢を流れるこぶし川の護岸工事です。準備してあった杭を打ち込みますが今月は手慣れたメンバーが沢山おられてはかどります。先月の杭の打ち増しとさらに下流に向けて作業を進めていきます。

側面には伐採した木を11月にカットしてあったものを横木として使います。径が20cm以上の木は2人で運んで下部の土台にした上に細めの木を載せ紐で縛って壁を作り、石や土を裏込めしていきます。石は川の中と周りの平地にあるものを集めていきます。平地に転がっている石をどけておけば草刈り機が使いやすくなるので春の作業を見越しての仕事です。土は斜面を削って沢が平らに広く使えるようにします。

午後には幅1m弱、長さ約20mの堂々とした灌漑用水路が橋まで届き記念撮影となりました。

下流にはYさんが独力で作られた約10mの護岸があり、ビオトープもきれいに手入れされています。Hさんは「しし脅し」を水量調整で調音され、いい音色が楽しめています。併せて焼き鰻で作った植物の名札をかけてくれています。これに甘えて「こぶし川」の名札もお願いしました。

昼休みに採れた「倒木に生えたキクラゲ」をわけてもらい家でその食感の良さに驚きました。今日もいろんな自然の恵みと、携わる人たちの思いをいっぱいいただきました。皆様ありがとうございました。（西原 充幸）



1月からげんきの森体験棟に落ち葉とコンテナが積みあがっています。

『落ち葉のベッド』という商品の袋詰め作業がつづいているからです。たくさんの方々に協力いただきながら、1月には何とか5,000個ほど詰めたのですが、目標は20,000個。まだまだ先の長い作業になっています。

晴れた日にはコナラの落ち葉を集める作業も必要になっています。新しくきれいな落ち葉の方が入れやすいのです。

また、お時間のあるみなさんは管理棟に顔を出してみてください。お待ちしております。

岡田 和久